

# 「梶原くんのレストラン」

梶原／かじわら

浦辺／うべ

西尾／にしお

梶原宅

梶原 どうぞどうぞ。

浦辺 へえ綺麗にしてるじゃん。

梶原 今日は人が来るからだって。『めんねワザワザ試食に来てもらつちゃつて。

西尾 いやいや、俺達も梶原君の料理すげー楽しみにしてるから。な?

浦辺 おお・・・なんか西尾がこの間食つたんだって?

西尾 うん。食つた食つた。

梶原 そそう。でもやっぱり色んな人の意見聞きたいから、浦辺君も来てくれて嬉しいよ。

浦辺 おお・・・。

梶原 どうぞ座つて。今お茶出すから。

西尾 あーいっていって。それよりお腹ペコペコ。

梶原 そつか。じゃあすぐ料理出しちゃうね。ちょっと待つて。

梶原がキッチンに向かう。

浦辺 西尾・・・本当かよ?

西尾 うん・・・梶原君の料理さ、まざいんだよね。

浦辺 そうなの?

西尾 うん。いや、厳密には不味いわけじゃない。不味い訳じやないけど・・・旨くない。

浦辺 あー。

西尾 それで脱サラしてレストラン开くとか言つてるからさー。止めた方がいい

浦辺 いと思うんだよね。

浦辺 ・・・で、俺を呼んだの?

西尾 そう。梶原君の料理さ、不味いって言つてあげてよ。

浦辺 自分で言えよ。

西尾 いや折角作つてもらつた料理に不味いとか言えないじゃん?俺そういうの凄く苦手なんだよ。でも浦辺は、そういう心ない事をズケズケ言えるタイプじゃん?

浦辺 今お前が心ない事言つてるじゃん！

西尾 いやいや、浦辺はね。浦辺は別だよ。だって浦辺は悲しむ心とか持ち合  
わせてないだろ？

浦辺 お前すげーズケズケ言つて来るじゃん！

西尾 まあまあ、まあまあ。少なくとも梶原君はいい人だから。言い難い  
んだよ。

浦辺 僕だつて言い難いよ。

西尾 そだらうけど！そだらうけどさ！そこを頼むよー。

浦辺 えー？

西尾 あ、じゃあもし、万が一、梶原君の料理がうまいなんて事がありえたら、  
そんな奇跡があり得たら、言わなくていいよ。ま、そんな奇跡は無いけ  
どなあ！

浦辺 お前なんなんだよ。もうそんな状態なら直接言えるだろ。  
本人には無理だよ。

梶原 お待たせー。

西尾 あ、來た來た。頼むよ。

梶原が料理を持つて来る。

梶原 お待たせしました。はい、これ前菜ね。

西尾 いただきまーす。

浦辺 いただきます。

西尾と浦辺食べ始める。西尾はちょくちょく浦辺を見ている。

西尾 うん。うん。うん。

浦辺 あー。あー。あー。はいはい。

梶原 どう？

浦辺 うん。うん。うん。

西尾 はいはいはい。

浦辺 ちょっと水もらつていい？

梶原 あ、ちょっと待つてね。

梶原が二人分の水を持って来る。

西尾 あーありがとう。

浦辺 ありがとう。

浦辺が水を飲み、もう一度料理の味を確かめる。

浦辺 うん。・・・これ間違いないな。

西尾 うん。・・・うんうん。

梶原 ・・・で、どう？

西尾 あー・・・うん。美味しかったよ。

浦辺 !?

梶原 本当？

西尾 おう。これ旨い、これ。これチーズが旨いね。

梶原 良かつたー。浦辺君は、どうだった？

浦辺 ・・・うん。

西尾 浦辺、正直に言えよー。お前が、思つた事を、正直に言えよー。梶原君

は色んな意見聞きたいんだから。ねえ？

梶原 うん。

西尾 はい言質とつたー。梶原君は色んな意見が聞きたい、言質とりましたー。さあーさあ浦辺ー言つてみようー言つてみてみようー言・・・つてみよ

う！

浦辺 お前うるさいよ。

西尾 OK！

西尾、マイムで浦辺に「言え。」とプレッシャーをかける。

浦辺 ・・・うん。なんて言うかね・・・んー、味が足りないよね。

梶原 味？・・・薄い感じする？

浦辺 薄いつていうか、ひと味足りない。全体的に。このかかるフレンチドレッシングに胡椒とか入ってる？

梶原 入ってるよ。

浦辺 じゃあ量が少ないのかな。パンチが弱いよね。

梶原 そつかあ。

梶原、メモをとる。西尾も聞きながら納得のマイム。

浦辺 あとこのピクルス。

梶原 あ、それ自分で漬けたんだ。

浦辺 だよね。ピクルスって酢漬けだけどさ。本当に酢だけで漬けたような味だよね。キュウリ！酢！っていう感じ。

梶原 うーん・・・ちょっと素材の味を大事にしようっていう気持ちが、強いのかな？

浦辺 そうだね。カプレーゼに塩味が無いところとかね。そういう何か足りない物が多いんだよね。

梶原 あー・・・。

浦辺 うん。この皿全体で言うと、不味くはないけど旨くもない。

西尾、梶原に見えないように「それだーー」というマイム。

梶原 ・・・そっかー、ごめんね。・・・足りない感じなんだねー・・・(唇を噛み締める)・・・うん・・・つづく、参考になつた・・本と、本当にありがと・・・。次の料理、ちょっと味みてくうよ。あ、お皿あ、片つけうね。

梶原が涙目で皿を持って奥に下がる。

浦辺 ・・・すげー氣まずいよ！

西尾 そうだろうな。すげー言うなーって思つたもん。

浦辺 やっぱ言い過ぎたかな。

西尾 いや、いいんだよいいんだよ。アレぐらい言つた方が。一度と包丁が持てない体にしてやろうぜ。

浦辺 やりすぎだよ。

西尾

(包丁を持とうとして持てないマイム) あ、あ、あ、って。包丁? あ、あ、あ、って。

浦辺

そんなトラウマ植え付ける必要ないだろ。嫌だよ。  
いいつていいつて。植え付けよう。

西尾

嫌だよ! てか、そういうお前は褒めてんじゃん。

浦辺

褒めてるよ。

西尾

褒めんなよ。

浦辺

なんでだよ。

西尾

褒めんなよ。

浦辺

じゃあ褒めんなよ。

西尾

・・・俺褒めて辞めさすタイプなんだよ。

浦辺

どういうタイプだよ! どういシステムで辞めさせるんだよ!  
いや、すつごい褒めんだよ。すつごい褒められると「そこ」まででもない  
んだよなー。そんなに言われると凄いプレッシャーになるんだよなあ。  
あ! 重い! プレッシャー凄い重い! このプレッシャー凄い重いもうやだ  
ーー! って思って辞めたくなるじやん?

浦辺

ならねえよ!

西尾

な? そういう飴とムチで、

浦辺

意味が全然違う。

西尾

辞めさせました。

浦辺

まだ辞めてない。まだ終わってない。

西尾

とにかく浦辺は今の感じですげー言つていいから。梶原君が脱サラとか  
料理とか辞めるようにガンガン言つて。俺は褒めるから。

浦辺

お前ズルいよ。

西尾

いいから。

梶原

おまたせー。

浦辺

いや、

西尾

いいから! 頼むよ。

梶原が料理を持って来る。

西尾 お、皿を一だねー、これも！

梶原 ありがとう。ちゃんと味見たから今度は口に合つといいんだけど……。

浦辺 お、おう……。

西尾 じゃあいただきまーす！

西尾と浦辺食べ始める。心配やうに見てくる梶原。

西尾 うん。うん。あーうん。

浦辺 うん。どう？

梶原 うん。あー、皿いなー！

西尾 これも旨いよー梶原君料理上手だなー！

梶原 あー良かつた。浦辺君は、どうだった？

浦辺 うん。

唇を噛んで耐える梶原。

浦辺 これ旨いなー！

梶原 本当にー？

浦辺 ううん。これ旨いよー！

梶原 良かつたー！

浦辺 これえーー梶原君料理の天才だなー！

梶原 ありがとうー良かつたーーさつきの料理が口に合わないみたいだからちよつと心配だったんだよね。

浦辺 これはーー美味しいねー！

梶原 良かつたーー口に合って良かつたーーあ、ゆっくり食べてて。次、メイ

ンだから。ちょっと準備して来る。

嬉しそうに去る梶原。

西尾 うん、待ってるーーーーおおいーなに日和つてんだよおーちゃんと不

味いっていいやあ！

浦辺 何で切れてんだよ。

西尾 お前が梶原君の料理不味いって言わねえからだろ？が。梶原君の料理があ！・・・不味いっていわねえからだらうがあ！

浦辺 お前なんなんだよ。

西尾 えー？ダメだろ？梶原君自分の料理にちょっと自信持つちゃつたんじゃない？お前梶原君が脱サラしてレストラン始めちやつたらどうするの？どう責任とるの？一緒にダンボールで家作つてあげるの？

浦辺 お前の中で梶原君の脱サラはホームレス確定なの？

西尾 確定だろ。一直線だろ。なんならもう、ちょっとホームレスだよ。

浦辺 ホームレスじやねえよ。ちょっともホームレスじやねえよ。なんだ「ち

よつとホームレス」って。

西尾 それぐらい危機感持てって事だよ。お前の一拳手一投足に、梶原君の未来がかかるってんだよ。もっと梶原君の事、心配してやれよ。

浦辺 お前が褒めてんのはいいのかよ。

西尾 それはしようがないだろ。俺気まずいんだから。

浦辺 俺だつて気まずいよ！

西尾 はいはい。はいはいはい。

浦辺 なんで信じないんだよ！気まずいよ！

西尾 それは我慢しろよ。いいか？お前が気まずい思いをしたくないばかりに、このまま梶原君がレストランを開店したら、何百、何千、何万人ものお客様さんが気まずい思いをするんだからな！

浦辺 そんなに流行ってるならいいじやねえか。

西尾 まあなんやかんや言つたけども、なんやかんや梶原君が料理持つて来るから、なんやかんや食べて、俺もなんやかんや言うから、お前もなんやかんや、梶原君の心にトドメを刺せ。

浦辺 俺の目的だけ急に具体的！

西尾 まあまあ、

梶原 お待たせー。

梶原が料理を持って来る。

西尾 お！これも美味しいぞうだね！

梶原 そうでしょ？実はこれ、ちょっと、特別な料理なんだ。

浦辺 特別？

梶原 そう。俺のパパが、小さな洋食屋をやってる話はしたよね？

西尾 ううん、初耳。

梶原 オッケー。やってるんだけど、これはその店で一番の人気メニュー。そして、俺の一一番好きな料理なんだ。浦辺君も聞いてるかも知れないけど、俺、仕事辞めようと思つててさ。……実は今、パパが入院してるんだ。いつ退院出来るかも判らないから店を閉めようつて話になつてるんだけど……あの店が無くなつたらパパも居なくなつちやう気がしてね……だから俺、店を繼ぐうと思つんだ。それで二人に色々食べてもらつて、感想聞いてたんだ。まだまだ至らない点があるのも判つてるんだけどさ、それでも、パパが作った中で俺が一番好きなこの料理を、美味しいって言つて貰えたら、自信を持つて店を続けると思う。これは、俺とパパを繋ぐ料理だから。……さ、食べてみてよ。

西尾 ・・・じゃ、いただきまーす・・・。

浦辺 ・・・いただきます・・・。

氣まずい顔の西尾と浦辺が食べ始める。

西尾 ・・・おお？・・・おお？

浦辺 ・・・おお・・・おお・・・これ、一番人気？

梶原 そう。

浦辺 ・・・おお・・・。

西尾 なるほどなあ！・・・そつかー！・・・。

浦辺 （水で口直ししてから食べる）・・・だよな――

西尾 いやー、これはな！・・・うんーだよな――

梶原 ・・・どう？

浦辺 ・・・。

西尾 ・・・うん、

両手を合わせ祈りのポーズをとる梶原。

西尾 ・・・・いやー！

浦辺 まつずー！

梶原 え？

西尾 おい、浦辺！

浦辺 まつずー！梶原君！梶原君の料理、全然旨くないよ！

梶原 浦辺君？

西尾 浦辺！

浦辺 なんか味がぼんやりしてるとか、さっぱりし過ぎてるっていうか、食べたいって気持ちが全然わからないよ。これだったらコンビニ弁当の方がおいしいレベルだよ。

梶原 ・・・（ほぼ泣き顔） そうかな？ そんなに美味しくないかな？

浦辺 でも頑張れよ！

梶原 ・・・え？

浦辺 梶原君の料理は旨くないよ！旨くないけど・・・でも頑張れよ！親父さん帰ってくるまで、店守らなきやいけないんだろ？親父さんの為に、店残さなきやいけないんだろ？今のままの、この料理じゃ、継いだって店は続かないよ。だったらもっと頑張って、うまい料理作ってくれよ！親父さんを越えるくらい、うまい料理作ってくれよ！

西尾 浦辺・・・。

梶原 ・・・そつか、浦辺君にはこの料理、美味しくなかつたんだね・・・。

西尾 梶原君・・・。

梶原 そつか・・・俺の料理は、パパみたいに旨いって言って貰えるような料理じゃないんだね・・・俺、料理向いてないのかもな・・・。

浦辺 梶原君・・・。

梶原 でもさ、浦辺君が言つたように、俺は店を守らなきや。パパが帰つてくるまで。美味しいって言ってくれて、ありがとう浦辺君。俺、パパを越えるくらい、もっと頑張、

西尾 俺も旨くないと思つてた！

梶原 ・・・え？

梶原君の料理、俺も旨くないと思つてた！

西尾 ・・・え？一人とも・・・旨くないと思つてたの？

浦辺 思つてた。

西尾 厳密には旨くもなければ、取り立てて言うほど不味くもない、中途半端な料理だと思ってた！

浦辺 思つてた。

梶原 え？（浦辺に）旨くないと思つてたんだよね？

浦辺 思つてた。

梶原 で？西尾君も旨くないと思つてたの？

西尾 思つてた！前に食べた時も旨くはないと思つてた！

梶原 ・・・つまり、俺の料理は、現状・・・一〇〇パーセントの人が旨くないと思ってるって事？

浦辺 ・・・そうだよ。

西尾 もっと言えば、いつそもうちょっと不味ければ、「不味い店」っていう売り出し方もあったのに、そこまででもない、二つの意味で美味しい

料理だと思ってた！

梶原 ・・・。

梶原 でも頑張れよ！

梶原 ！

梶原 西尾 梶原君の料理はさ、お父さんとの絆なんだよ！簡単に、辞めるとか言うなよ！

梶原 言つてないよ？あれ？言つた？俺言つた？

西尾 今は中途半端な料理だけど、いつか、いつか必ず、梶原君の料理がおいしきり、「梶原君のお店、ショッピングモールのフードコートに出店しませんか？」って、「梶原君の監修で冷凍食品作りませんか？」って、言わせてみせようぜ！俺も応援するし！お父さんだって、梶原君の事、草葉の陰からずっと見守ってるよ！

梶原 生きてる。現状生きてるよ？

浦辺 フレー！フレー！かーじーわーー！

梶原 あ、うん、ありがとう。

浦辺 頑張れー！頑張れー！梶原！

西尾 ・浦辺 頑張れ頑張れ梶原！頑張れ頑張れ梶原！

梶原 うん、ありがとう。・・・なんかさ、俺の料理、美味しくないって言われて結構ショックだったんだけどさ・・・それでも、二人に食べてもらえて

て、感想聞けて……すぐく、良かつたよ。ありがとね。

浦辺  
うん。

西尾  
よし・・・胴上げだな。

梶原  
なんで？

西尾  
こういう時は胴上げなんだよ。浦辺、やるぞ。

浦辺  
おう！

梶原  
いやいや、いって！いって！

西尾  
いいから。ちょっと浮かすだけだから。

梶原  
危ないって！

浦辺  
いくぞー！

梶原  
本当いいって！怖いから！

騒々しい3人。

出来るならゆつくり暗転。